

## 年間第8主日

イザヤ 49・14-15  
一コリント 4・1-5  
マタイ 6・24-34

2014.3.2 高円寺教会 9:30 ミサ  
クラレチアン宣教会 うめざき たかいち 梅崎 隆一神父

人が救われようとするとき、大別すると二つの方法を選ぶことになります。一つは神様に従うこと。もう一つは神様以外のものを神様にする事です。神様ではないものを神様だと偽造することを偶像崇拜と言います。

詩篇 115 番にはこう書いてあります。「国々の偶像は金銀にすぎず人間の手が作ったもの。口があっても話せず目があっても見えない。耳があっても聞こえず鼻があってもかぐことができない。手があってもつかめず足があっても歩けず喉があっても声をだせない。偶像を造り、それに依り頼む者は皆、偶像と同じようになる。」

今日の福音に出てくる富というものは、人間が造り出した命のないものの代表です。お金によって人の暮らしがずいぶん便利になったのだから、みんな幸せであるはずなのに、何故か生きることに喜びが出てこない。お金を手に入れることで幸せになると信じていますから、より収入の多い仕事を手に入れるため、あらゆる競争に勝つことが人間の救いの条件だと思い込んでいます。また、儲けるためにはより安い製品を沢山作ることが求められます。そこで競争に負けた人たちの収入を削り、安い製品を生産します。更に製品を安くするために安価な賃金で外国人を働かせます。そして日本人のガス抜きのために、「彼らがいると日本人の仕事が減る」とお互いを叩き合わせたりする。そんな日本の中で毎年3万人が自死に追い込まれ、受験競争の主戦場である学校においていじめや不登校を経験しない子どもがいなくなった。

お金は人間が食べて、寝て、トイレに行くという生物学的な命を保証する。しかし、人はそれを手に得るだけでは生き生きと生きることはできません。

栄華を極めた知恵の王であるソロモンは国土、お金、民の娯楽を手に入れたけど、偶像崇拜にはまり、やがて国は分裂する。この世の最高の知恵を持っていても神に従い続けることの保証にはならないようです。

偶像を崇拝すると人の命が減びてしまうのだけれど、人間にとって偶像は大変な魅力があり、それに比べ本当の神様は人間の目にはショボく映ってしまうようです。日本だけではなく世界中で偶像崇拝が猛威をふるっていて、すべての命が苦しんでいます。

人が作り出した富ではなく、神が創り出した人間の中から出てくるもの、つまり人への思いやり、暖かい眼差しという一見ショボくみえるものの中にこそ、神の命が輝いている。命を感じない場所に命をもたらすのは、神様と同じ業を行っていることの見えるしるしとなります。

今日一日神の命をこの世に輝かせることができますように。